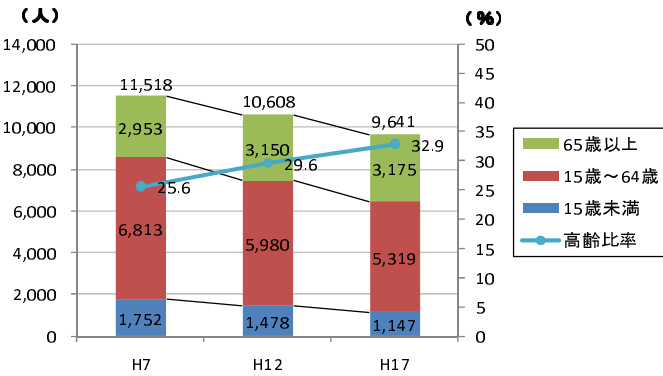


# カルテ①: 温海地域における現況とニーズの整理

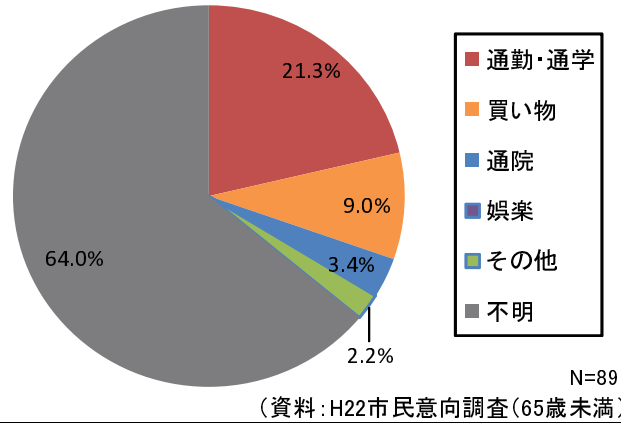
## 人口動態

○人口は**減少傾向**である。  
 ○一方、高齢者人口は緩やかな増加傾向にあり、高齢化率は**増加傾向**である。  
 ○人口の約67%を占める65歳未満のうち、頻度の高い外出目的は「**通勤・通学**」が最も多く**21.3%**を占めている。

### ◆人口3区分及び高齢化率の推移

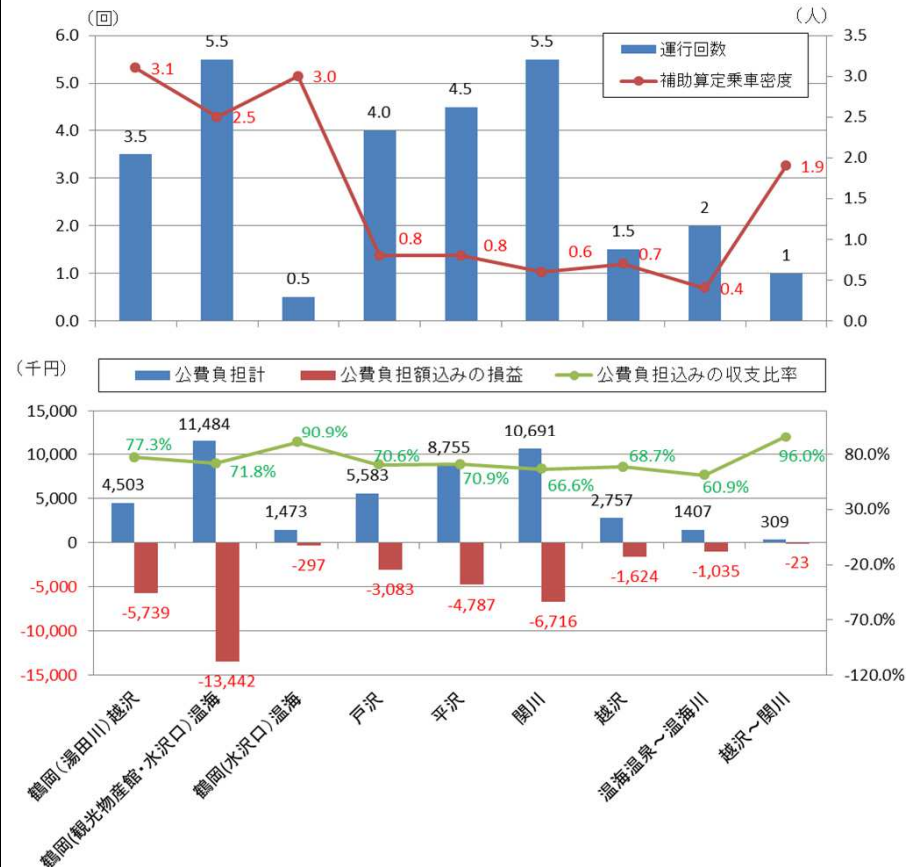


### ◆頻度の高い外出目的の割合



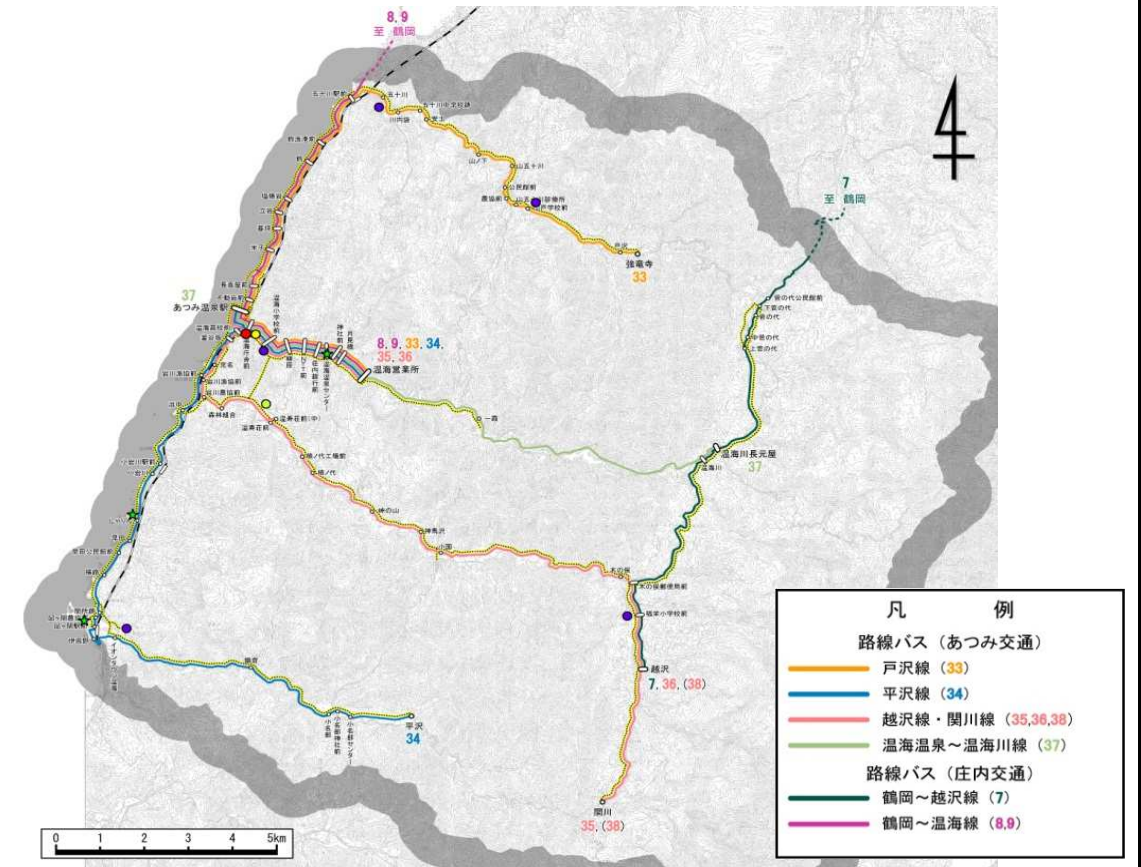
## 公共交通の利用及び収支状況(路線別)

○温海地域内の運行路線は「戸沢」「平沢」「関川」「越沢」「温海温泉～温海川」「越沢～関川」の6つだが、乗車密度はいずれも0.4～1.9と低い。  
 ○収支比率は「関川」「越沢」「温海温泉～温海川」が70%未満と低い。



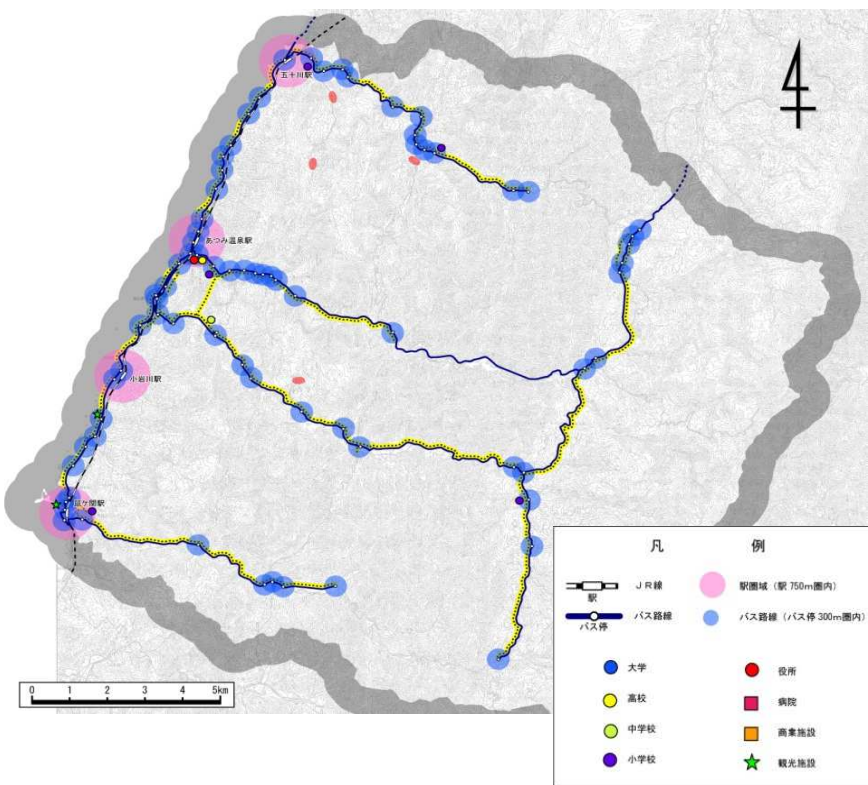
## バス運行路線図

○バス路線は9路線ある。  
 ○スクールバスの路線網は、路線バスと重複して運行している。



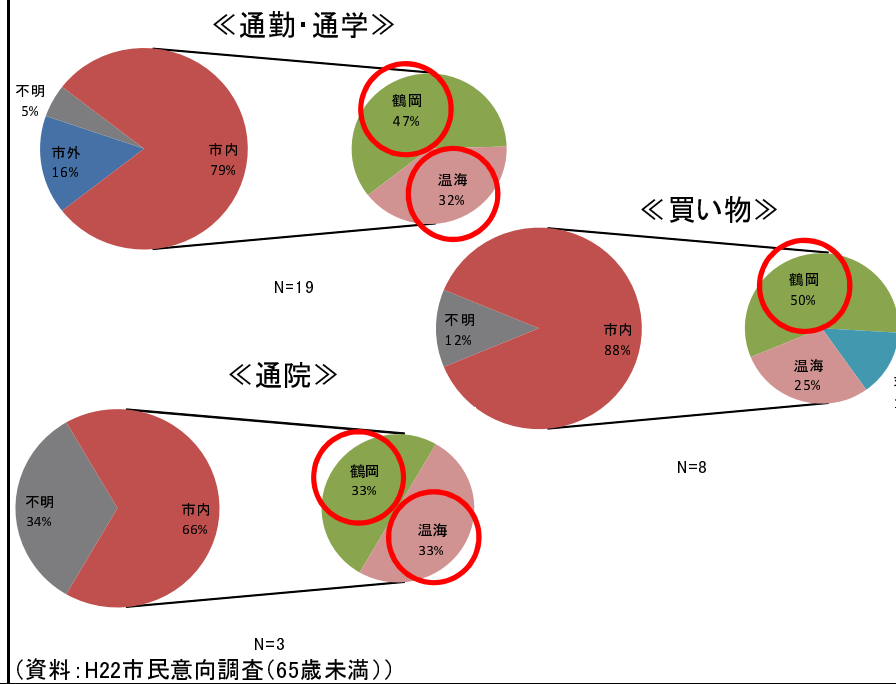
## 主な目的施設と公共交通空白区域図

○現状の路線バスの路線網は、主な施設へのアクセスが確保されている。



## 地域内の人の動き

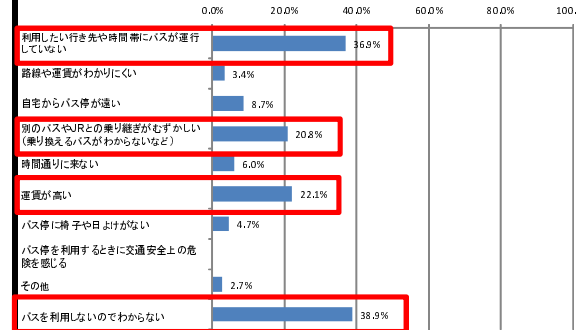
○通勤・通学、買い物、通院において、**鶴岡地域**と**温海地域**が主な行先となっている。



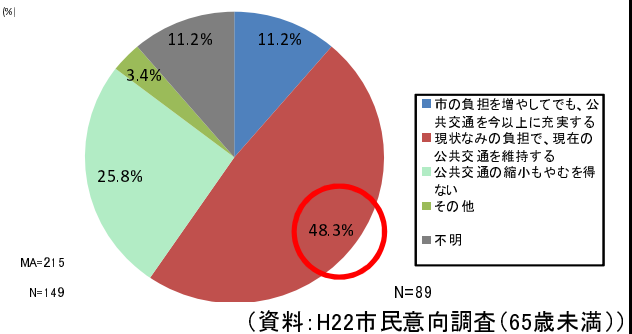
## 住民ニーズ(市民アンケート調査結果)

○路線バスに対する不満点は、「**利用したい行先や時間帯にバスが運行していない**」が**36.9%**となっている。  
 ○路線バスに対する改善要望は、「**外出する時間帯の便数の増加**」が最も多く**26.8%**を占めている。  
 ○今後のあり方については、65歳未満と65歳以上で「**現状なみの負担で、現在の公共交通を維持する**」が最も多い。

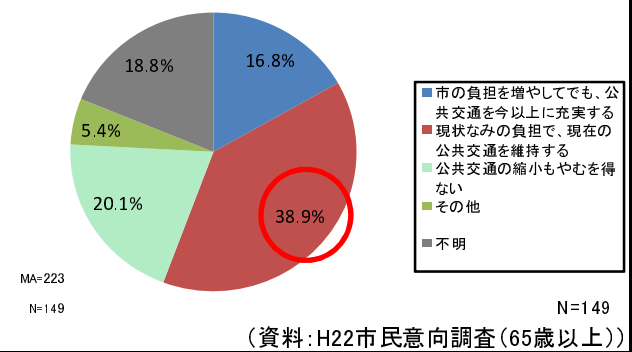
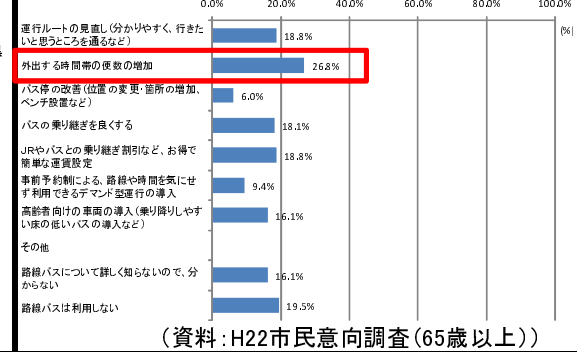
### ◆路線バスに対する不満点



### ◆路線バスの今後のあり方について



### ◆路線バスに対する改善要望



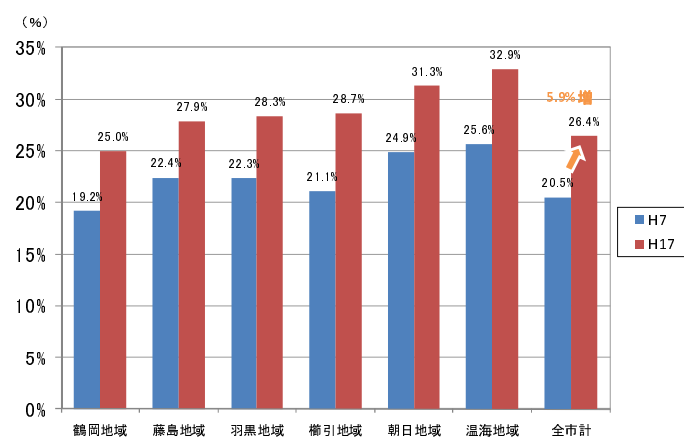
# カルテ②: 温海地域の課題の解決に向けた方針と対策

## 問題点・課題の整理

【問題点】 地域の人口減少・少子化に伴い、バス利用者の確保が困難な状況となっている。

↓  
【課題】 多くの利用者確保は困難であるが、バスを日常的に利用する交通弱者が存在しており、需要に見合った運行形態により、バスを運行維持していく必要がある。

- 温海地域内の人口は、市内他地域と比較して減少傾向が大きく、かつ、高齢化率も高くなっている。
- しかし、地域内には、高校生の通学や高齢者の通院・買い物など、毎日の交通手段として、運行維持する必要がある。



◆ 地域別の高齢化率

【問題点】 バス利用者が少ない中、地域内には温海温泉を起終点として6路線が運行され、さらに同じ経路でスクールバスが運行され、バス運行にかかる経費負担が大きくなっている。

↓  
【課題】 バスの運行形態を幹線・枝線等に再整理し、需要に応じて新たな交通手段やその他目的バスの活用など、抜本的に、より効率的な運行形態に変える必要がある。

- 地域内には、温海庁舎を起終点とするバスが6路線と、鶴岡とを結ぶ2系統、さらにスクールバスが運行しており、利用者数に対して、密な運行形態となっているが、利用者は少ない。
- 地域内路線の効率化を目指し、幹線・枝線化やスクールバス統合など、抜本的に効率的な運行を行う必要がある。

【問題点】 住民はマイカー依存率が高く、温泉等への観光客が公共交通を利用できる環境も整備されていない。

↓  
【課題】 超高齢化社会を控え、地域の貴重な交通手段としてバスを持続可能な形で位置づけること、また、観光客の二次交通としてのバス利用など、地域内でのバス活用方を再考する必要がある。

- 地域内は、マイカー利用率が圧倒的に高く、公共交通利用者は極めて少ない。
- 住民の中には、最寄りにバス停が設置され、バスが利用可能な状態となっている。

## 対策方針(案)

### 方針① 既存の公共交通体系の見直し

#### ■ JR・路線バス・スクールバス・目的バスなど、地域内の公共交通体系の抜本的見直し

- 現在、運行している、JR、民営バス、スクールバスなどを、地域の公共交通として総合的に捉え、効率的で利便性を高めた運行形態に見直す。
- 現在、路線バスとほぼ同区間を運行している「スクールバス」を統合化する。

#### ■ 新たな交通システムの導入

- 運行形態の見直しにより、需要が少ない地区へは、デマンド型交通等の新たな交通システムを試験導入し、将来的な導入可能性を検証する。

### 方針② まちづくりとバスの連携

#### ■ 地域とのタイアップ

- 地域の観光、病院、商業施設などと共に、バスの運行維持を支える、地域内での仕組みを構築する。

### 方針③ 公共交通利用に対する市民意識の醸成

#### ■ 公共交通の維持存続に向けたPR

- 地域住民が、毎日の通勤・通学や買い物、通院など、様々な目的で利用可能なバスを選択できるような、啓発を行う。

## 対策メニュー(案)

### ■ JR・路線バス・スクールバス・目的バスなど、地域内の公共交通体系の抜本的見直し・新たな交通システムの導入

- メニュー1: 「鶴岡ーあつみ温泉駅」線、および「鶴岡ー温海川」線の幹線バス化、その他枝線バス化。
- メニュー2: あつみ温泉駅から、「平沢・越沢・関川」、五十川駅から「強竜寺」、温海川から「越沢、あつみ温泉駅」間等、既存路線バスに代わる、新たな交通手段の導入(デマンド型交通)。
- メニュー3: 「あつみ温泉、五十川駅、温海川」における、乗り継ぎ拠点の整備。

### ■ 地域とのタイアップ・公共交通の維持存続に向けたPR

- メニュー4: 地域住民、学校、病院施設、観光施設、地元商店などとの連携による、地域一帯となったバス活用促進。
- メニュー5: 通勤・通学、通院、買い物等の住民需要のバス利用促進、需要の掘りおこし。

